

BRIDGEKUMAMOTO 基金第3助成「復興未来支援」活動団体活動発表・交流会報告

◆2021年2月11日（木）14時～16時

◆オンライン開催

◆流れ：

- 1.挨拶 一般社団法人 BRIDGEKUMAMOTO 代表理事 佐藤かつあき  
 ・BRIDGEKUMAMOTO 基金の経緯(第三次募集について)  
 ・今日の流れについて 一般財団法人くまもと未来創造基金 宮原

2.採択団体の発表

- ①チームやまびこ  
 ②やっちら保健室協議委員会  
 ③多良木キッズサークル  
 ④リポーン

各団体 20分（団体各10分+質疑応答アドバイス）

3. 災害支援活動について一言コメント

- ・一般社団法人 RCF 代表理事 藤澤烈氏  
 ・公益財団法人みんなでつくる財団おかやま 理事 石田篤史氏  
 ・公益財団法人佐賀未来創造基金 代表理事 山田健一郎氏

4. 閉会挨拶 一般社団法人 BRIDGEKUMAMOTO ・一般財団法人くまもと未来創造基金  
 理事 三城 賢士

◆参加者：BRIDGEKUMAMOTO 基金（佐藤・三城・村上・坂本・宮原）

発表者（村上さん・蓑田さん・吉村さん・溝口さん）

アドバイザー（藤沢さん・石田さん・山田さん）

一般参加（濱砂さん一般社団法人 SINKa） 計13名



団体名	アドバイス
チームやまびこ	<p><b>【石田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブシアターを継続的にやる財源はどう考えているか？</li> <li>・発表の中に「発信力・申請書を書く力が弱い」という発言があった。継続的協力を得ていくためにも、情報発信だけでなく、報告書も大事。自分でやる事には限りがある。足りないもの・得意な人（文章作成が上手な人など）具体的に協力者を募ってはどうか？仲間で分業していくのも大事なこと</li> </ul> <p><b>【藤沢さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「復興とは何か？」被災者が日常を取り戻すということ。「花火」「祭り」が復興に無駄なことではなく、日常を取り戻すために大事なこと</li> <li>・活動の中にある飲食店の支援も、コロナ禍の中、大事な活動 テイクアウト</li> <li>・情報発信（HP）で大事なこと</li> <li>①課題の表現</li> <li>②現場の状況や声</li> <li>③信頼を得ていくための、活動の広がり（連携やネットワーク）を発信する</li> </ul> <p><b>【山田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通してコミュニティづくり（化）を進めるためにはもう少し発信や仕掛けが必要</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトドア・ケータリング活動はコロナ感染で広がっており、佐賀でも助成しているが、継続的活動のための資金確保が難しい。飲食店の出店料も考えているようだが、売り上げが上がらないと撤退する飲食店もある。何らかのフォローアップが必要になる</li> <li>・ケータリングの可能性として、個別訪問や支援等も考えていくと、地域内での支援の輪が広がっていく</li> <li>・自己資金調達も考えているようであるが、団体サポートとしての財団などでのサポートも必要になる。資源調達はノウハウ共有していくとよい。</li> <li>・採択4団体に共通して言えるが、活動を見つけにくかった。FBやブログしかない。HP等の情報発信をしっかりとっていくことは大事である。</li> </ul>
<p>やっちょろ保健室 運営協議会</p>	<p><b>【山田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても大事な活動である。気になったことは、助成金で不足する資金はどう調達するのか</li> <li>・前回の BRIDGEKUMAMOTO 基金助成でニーズ調査をしたことはとても有意義な使い方。ニーズ調査の結果が知りたい</li> <li>・サロン活動は大事な活動であるが、人材育成をしていく必要がある。</li> <li>・被災者や高齢者、当事者が主役になって活動たすける側になることもとても大事で みんなで楽しみながらかつどうできるいい</li> <li>・今後の連携（行政など）をどう図っていくか</li> <li>・コミュニティナースやフレンドナースをいう活動が佐賀でも行われている 若い人たちとの関係性や協力が得られていくといいと感じた</li> </ul> <p><b>【藤沢さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時のコミュニティナースの役割は全国的にも注目されている。国でも関心が高く、今後も何らかの支援体制ができるのでは</li> <li>・東日本大震災でも、高齢者の支援はとても重要</li> <li>・各地でできている体制（行政主導）は最低限の支援であり、民間がその隙間を埋めていくことはとても重要だが、復興は長期戦であり、無理なく続けていくことが大事である。</li> <li>・キーワードとして①地域内の連携（これはできているようだ）②域外の連携 全国で活動しているグループはたくさんあるようである。情報発信をしっかりと。つながり、「熊本では蓑田さん」みたいにネームバリューがつくと、国も注目していることでもあり、リソース（資源）が入りやすくなる。</li> </ul> <p><b>【石田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所・サロン活動は、岡山での被災支援活動でも盛んにおこなわれている。コミュニティナース的支援も、支援経験した専門家が応援に来ていて、他の被災地に応援に行ったり、全国規模ネットワークでつながっているようだ。地域だけでは難しいことも、つながっていくことで助けられることもある</li> <li>・資金調達は地域内だけでは難しい。例えば、認知症サポーターのような人材を活用していくのも、お金だけではない、ボランティア活動としてうまく生かしていく手もある。認知症サポーターも活動の場ができる（傾聴など）事例）ブドウの家 オレンジボランティア</li> </ul>

<p>多良木キッズ サークル</p>	<p><b>【石田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の頻度が多い。時間とコストの確保が大変</li> <li>・物資支援—スマートサプライを活用できる。物資は集めやすい。ニーズに応じた物資をそろえるには利用しやすい。</li> <li>・サロン活動を手伝ってくれる仲間集めが必要。まずは活動知ってもらうことも大事。例えば募金箱を置いて、協力を募っては（何百万は集まらなくても、10とか20個とかおいてもらうことで、年間50万~70万とか集めている団体もある。活動を知ってもらう機会にもなる。</li> </ul> <p><b>【藤沢さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの支援は1年くらいから様々な問題が起きるので、支援は大事な活動</li> <li>・大事な活動だということが認知されること。</li> </ul> <p>「代表性」—地域の中で代表的な存在か？ 単団体ではなかなか難しい。代表性を得ているか？ 例えば、地域の子育て支援の団体と連携して「協議会」などを作るなどして、必要性を訴えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども支援と物資支援は結び付きやすい。物資を配布することで生まれる関係性や会話によって、声を集める。届けながらアウトリーチできる。食材・物資支援は今注目されている。事例)「子ども宅食」の活動など</li> </ul> <p><b>【山田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀でも子ども宅食応援団の方々と連携させていただいている。</li> <li>・フードバンクや 関係機関と連携するとよい</li> <li>・子どもに関する支援は集まりやすい。募金箱から始めるのはお勧め。</li> <li>・つながり作りは必要</li> <li>・申請書を見たこと、ほとんどが人件費だった。助成金終了後どうするか、今後財団のサポートも含めて大事になってくる。</li> </ul>
<p>リポーン</p>	<p><b>【山田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・坂本町で何ができるか。素晴らしい信念を持ち活動されていることに感銘</li> <li>・ビジネス化—どう連携していくか</li> <li>・協力者もたくさんいるようであるが、面的つながり、波及効果 どうつながっていくか？ 縦のつながりの協力者得られそう</li> </ul> <p><b>【藤沢さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南相馬の事例：すべて失ってしまったからこそ、新しく始められる「全国の復興のフロンティアになるという意気込み」</li> <li>・東日本での復興・まちづくりは二極化している。</li> </ul> <p>人に来てもらって、活躍してもらっているか？ いろいろな取り組み。外部人材の巻き込みが大事。行政がやるべきこともあるが、行政関係者も初めてのこともあり、被災者もいる。思い切ったことはやれないし、どうしても時間がかかる。そこは民間団体の役目。民間でリードしてやっていく。溝口さんも復興のシノボルのリーダーの一人。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例：「釜援隊」復興など10のプロジェクトに取り組む</li> </ul> <p><a href="http://kamaentai.org/">http://kamaentai.org/</a></p>

	<p><b>【石田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災解体家屋の廃材を生かす事業、大変興味がある。ストックする場所はあるのか→廃校利用をお願いしているが、許可が出ない。浸水した自宅をオープンスペースにして置く予定。→岡山でも物資の保管場所確保が難しかった。個人で 2.3 年くらいは使ってよいと無償で借りることができた。そういう物件もあるのでは</li> <li>・思い出の品物を復活させる活動もある。思い出のあるものを生かすことには意義がある。協力事業者とのネットワークを作り、解体される際に必要なものを保管場所へ運んでくれるような流れができるとよい。そういう仕組みができるとよい。</li> </ul>
<p>最後に全体へメッセージを</p>	<p><b>【藤沢さん】</b></p> <p>3点</p> <p>①地域・地元が大事</p> <p>実際に地元に住んでいるから、地域の変化や空気感を感じながら支援ができる。どういう支援をすべきか、その空気感を感じながら対応できる。リソースは足りないことがある。行政でできることには限りがある。地元民間の声が重要。行政などと二人三脚で連携しながら、周りで支えていくことも必要</p> <p>②財源は大事だが、復興は長くかかる（阪神淡路大震災 25 年昨年まで。中越地震 15 年。東日本大震災 30 年）無理なく、お金がなくても続ける、楽しく続ける仕組みづくりが必要。</p> <p>③被災者は目の前の日々のことで精いっぱい。支援者は半歩前を見ていく。これまでの復興事例を例に半年たったならこうなんだと活動していく。</p> <p><b>【石田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の採択団体は多様な事業 長く続けるには、自分のペースで楽しく財団や BRIDGEKUMAMOTO と一緒に長く伴走をしていってほしい。</li> <li>・岡山では、団体の交流会や気づきの共有などを行っている。大原美術館を夜間貸し出してきて、支援だけではない、芸術に触れたり普段の話をしたり、メンタルヘルスということも考えて開催している。</li> </ul> <p><b>【山田さん】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の人がやることの大切さ 当事者に寄り添う</li> <li>・「半歩前を見ながら」は佐賀でも大事にしている</li> <li>・支援する側のつながりを大切にしたい。休眠預金活用新型コロナウイルス感染対応緊急支援助成事業でも災害支援助成を行っている。支援団体で連携を組むことを目的としている。今年も災害が起きるかもしれない。九州でもつながっていききたい。</li> </ul>